

薬剤師として、国際協力を志す

青年海外協力隊員として、
ガーナでHIV対策に取り組む薬剤師の奮戦記です。

CPA 会議報告

第10回 Commonwealth Pharmacists Association (CPA) 会議が2009年8月5日から9日にかけてガーナの首都アクラの国立劇場で開催されました。今回はガーナ薬学会との共同で行われ、参加者は約1500人と今までで最大規模のCPA会議となりました。

会議のテーマは「脅威と危機管理：不安定な世界における薬学の必須な役割について」でした。最も注目を集めた話題の一つは、医薬品開発・分析の専門家であるPatric Lukulay博士による、「偽造医薬品と規格外医薬品の流通」でした。まず、偽造医薬品とは「故意に成分や量や原料について不適切な表示がされている」医薬品であり、規格外医薬品とは「合法的に製造された医薬品であるが、品質が基準に満たない医薬品」ということが説明されました。これらの多くは特許権侵害や製造登録許可がされていない製造者によるもので、偽造医薬品及び規格外医薬品が現代の公衆衛生において重大な脅威であることが強調されました。なぜ

なら、これらは医療システムへの投資を衰えさせ、患者やクライアントの医療不信を招き、治療の妨げになり、更には不適切な化学物質により命を奪う危険もあるからです。そして薬剤耐性や治療の失敗を導く可能性もあるのです。問題の原因は、品質管理や監視システムの脆弱性であったり、市場が品質より価格を重視する傾向にあることなどが挙げられます。

例えば、アフリカにおいて流通している抗マラリア薬のクロロキンは20～67%の割合で含有物試験に適合しないと推計されているそうです（WHO）。またアフリカや途上国だけでなく世界中にこの問題は広がっています。そしてそれらは実に巧妙に本物と似たように包装されているため、たとえ専門家であっても、見た目で判断することは難しいのです。

これらの問題を解決するためには、より法整備及び監視体制を強化し、市民への注意喚起をするとともに、患者や市民を巻き込んで対策を講じる必要があるということでした。

また、そのほかにも、Medicines for Mala-

後町陽子（ごちょう・ようこ）

2003年-2004年 薬学生の集い(APS-JAPAN)会長
2005年-2006年 国際薬学生連盟(IPSF)本部役員
2007年 明治薬科大学卒業
2008年9月～青年海外協力隊としてガーナ イースタン州 アコソボのアソオジャン郡保健局にてエイズ対策分野で活動中
連絡先: yohkocco04007@yahoo.co.jp
ブログhttp://yohkotin.blogspot.com/
Website http://www.geocities.jp/yohkocco0407/

ria Venture (MMV; 誰もが入手可能なマラリア治療薬の新薬の探索・開発・供給の研究を目的としているスイス・ジュネーブの非営利組織)の会長Chris Hentschel博士よりマラリア薬へのアクセス向上についての講義があるなど、アフリカ地域の保健衛生と薬剤師の役割について様々な講演が開催されました。

その他、国際薬学生連盟 (IPSF) により学生フォーラムも開催され、6カ国から22名の薬学生と国際薬学連盟 (FIP) の会長、副会長及びCPA会長もフォーラムに参加し、学生を激励しました。



CPA 開会式



CPA 学生フォーラム 参加者
最前列 向かって右から筆者、国際薬学生連盟 (IPSF) アフリカ地域オフィス代表、ガーナ薬学生組織代表、KNUST薬学部学部長、国際薬学連盟 (FIP) 副会長、会長、CPA会長



偽造医薬品・規格外医薬品についての講演

ガーナの薬学事情：薬学教育と人材不足

ガーナの薬学部は1961年にクマシ市にあるクワミ・エンクルマ科学技術大学にて開始されました。昨年新しい薬学部が2校開校し、現在は3校ありますが、それまで40年以上、ガーナには薬学部が1校のみでした。ガーナの薬学部は4年間の学部教育を経て1年間インターンを行い、資格試験を受けます。はじめの2年間は基礎、高学年次には臨床や応用を学びます。難点は実験に必要な機材を新調・維持するための資金が不足していることや、試薬や検体の保存に必要な環境を整えるための電力供給が不安定であることです。公立薬学部の学費は年間350セディ（約23,000円）です。

ガーナ全土で登録薬剤師は約1800名しかいないことに加え、約8割が首都アクラと第2の都市クマ

シに集中している現状があります。これは薬剤師に限ったことではなく、医療サービス全体が経済の中心である首都圏に集中しており、それ以外の地域には行き届いていません。よって首都圏以外の地域での医薬品の適正使用が大きな課題となっています。一般に低所得層は医療保険に加入しない傾向が強く、体調不良時、医療機関にはかからず、市場などで薬を求め、独自に対処してしまいます。そして抗マラリア薬や抗生物質の不正流通と間違った使い方が個々の患者の健康を害するとともに耐性の問題を深刻化させているといわれています。



クワミ・エンクルマ科学技術大学 (KNUST) 薬学部授業風景

日本とガーナの薬剤師の数と割合

	人口	登録薬剤師数	薬剤師割合 (対1万人)	薬学部卒業生
日本(2006年)	127,720,000	252,533 (内、現職薬剤師153,731)	19.77	9,314(2007年)
ガーナ(2007年)	23,947,000	1,798	0.75	120

【参考】1. Commonwealth Pharmacists Association ホームページ <http://www.commonwealthpharmacy.org/>

2. ガーナ薬学会ホームページ <http://www.psgn.org/>

3. クワミ・エンクルマ科学技術大学(KNUST:Kwame Nkrumah University of Science and Technology)ホームページ <http://www.knust.edu.gh/pages/>

4. The 2009 FIP Global Pharmacy Workforce Report <http://www.fip.org/hr>